平成29年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	福山市立今津小学校							
学校長氏名	戸羽 純士	栄養教諭氏名	安達 美和子					
職員数	3 5名	児童・生徒数	3 4 0名					

1 学校における食育の現状(昨年度からの課題等)

- ・生活習慣の乱れ等から、朝食を毎日食べることができていない児童がいる。
- ・残食率は0.1%程度である。

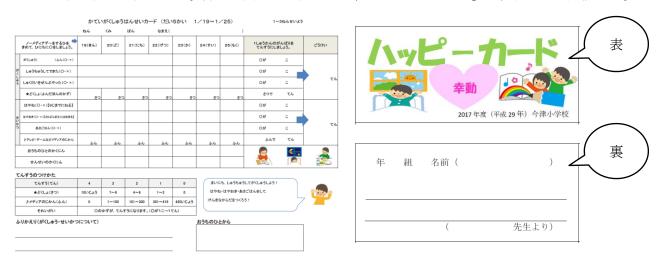
2 学校の食育に係る目標(成果指標・目標値)

・早寝・早起き・朝ごはん 90%以上の定着。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】(テーマ) 家庭学習強化週間を利用した、早寝・早起き・朝ごはんの推進

・家庭学習や生活習慣について振り返る「家庭学習強化週間」で使用する「家庭学習反省カード」を、家庭学習や早寝・早起き・朝ごはんに取組む意欲を高め、自分で目標を設定しやすいよう、取組めた分だけ得点がつくように様式を変更した。得点が高かった児童には、「ハッピーカード」を渡すことで評価した。



【取組2】(テーマ) <u>ミニ保健での早寝・早起き・朝ごはん指導</u>

・早寝・早起き・朝ごはんの大切さについて、養護教諭・栄養教諭が指導した。昨年度までは、年2回の 実施であったが、今年度は、2回目の指導後に、早寝・早起き・朝ごはんができている児童が増えていな い実態を受け、3回目の指導を実施し、児童に意識付けをする機会を増やした。





<指導内容>

- 「クイズ!早寝・早起き・朝ごはん」
- ・朝ごはんの3つのパワーを知ろう

など

【取組3】(テーマ) 残食を出さない指導

- ・「食べ始める前に、食缶の中を空にしておく」、「自分の食べられる量を考えさせ、増やしたり、減らしたりさせる」指導を徹底して行った。また、偏食傾向の児童については、担任・栄養教諭が個々の状況を把握し、児童と話しながら「この量ならがんばれる」という量を決めて食べさせることで、少ない量であっても、食べられたことに達成感が味わえるように指導した。
- ・給食時間に、毎日の食事に関わっている人について考えさせたり、給食の先生の仕事を紹介したりして、感謝の気持ちを育てる指導をした。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- ・ひろしま給食メニュー (熱く燃えろ!!Cスープ,広島レモン入り小松菜マドレーヌ)を取り入れた「夏休み子ども料理教室」を実施した。
- ・学校近くのスーパーに、チラシとレシピを置かせていただいた。





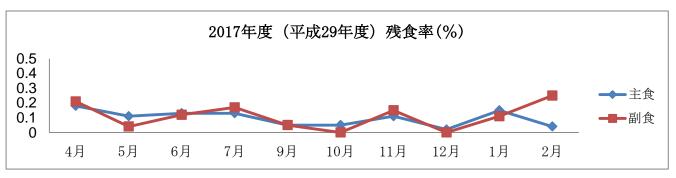
5 取組に対する成果と課題

【成果】

・家庭学習強化週間における調査で、低学年では、毎日朝食を食べている児童の割合が増加した。

		7 日	6 目	5 目	4 日	3 日	2 日	1 日	0 日
低学年 (%)	5/17~5/22	85. 7	7. 3	3.4	1. 7	0	0.5	0	0
	10/17~10/23	91.8	5. 8	2.3	0	0	0	0	0
	1/19~1/25	92. 2	1.6	3. 1	0.8	1.6	0.8	0	0

・残食率は、年間を通じて 0.1~0.2%程度であった。 2月の残食率が高くなったのは、インフルエンザの流行により、欠席者が多かったためと考えられる。



【課題】

・家庭学習強化週間における調査で、高学年では、毎日朝食を食べている児童の割合が減少した。

		7 日	6 日	5 日	4 日	3 日	2 日	1 日	0 日
高学年 (%)	5/17~5/22	96. 7	0	1.6	0.8	0	0	0	0
	10/17~10/23	91. 2	3. 4	0.7	1. 4	2. 0	1. 4	0	0
	1/19~1/25	89. 0	7. 5	0.7	1. 4	0. 7	0.7	0	0

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・ミニ保健や通信を通して、継続的な指導を行う。
- ・早寝・早起き・朝ごはんの重要性について,通信や学級懇談会等で保護者啓発を行い,家庭での協力を お願いする。
- ・早寝・早起き・朝ごはんができていない児童については、個別に状況や背景(理由)をふまえた指導を 担任・栄養教諭が連携して行う。
- ・小中一貫体力向上部会でも、早寝・早起き・朝ごはんの推進を校区全体で取り組み、指導を行っていく。
- ・引き続き残食を出さない指導を徹底し、より残食が少なくなるようにする。